

学校
×
docomo

ICTが当たり前 使える環境で、 学習者の能力を伸ばす

目的

- 社会で当たり前求められるICT活用能力を育てる
- 生徒の生活スタイルに合わせた学習環境を整える
- これまでの授業スタイルを刷新し学力向上させる
- 学校・生徒・保護者間のコミュニケーションをより活性化



アプローチ

- 生徒全員が家庭学習や校外学習と、どこでも利用できる環境の提供
- 学内ポータル・クラウドサービスを活用した新しい学びのスタイルの導入
- アダプティブラーニング等、継続的な学習習慣着を目指した学びの効率化
- 学校生活について、保護者向けのタイムリーな情報発信



学校法人
中村学園

福岡県福岡市城南区別府5-7-1

URL: <http://www.nakamura-u.ac.jp/>



福岡市にある中村学園大学は、「栄養科学部」「教育学部」「流通科学部」の3学部と「短期大学部」を擁する。理論と実際の統合を図り、学問と生活の融合を重んじる教育と研究を実践している。

LTE対応のノートPCを必携化し、日常的にICTを使える環境を

学校法人中村学園は、法人内の中村学園大学・中村学園大学短期大学部と中村学園三陽中学・高等学校においてLTE対応のノートPCとタブレットをそれぞれ導入し、ICTを活用した学習スタイルを導入した。これまでの学び方に固執せず、学習者の能力をさらに高めるためにも、全学的にICTをツールとして活用する考えだ。

ICTを活用することで、学びのスタイルも変わる

2017年、同大学は栄養科学部において「フード・マネジメント学科」を新設した。それと同時に、同学科ではLTE対応のノートPCを必携化し、ICTを日常的に活用する学習スタイルを導入した。中村学園 理事・法人本部長の中村紘右氏は「今の時代、目的を実現するためにICTを活用することは当たり前です。学生には日常的にICTをツールとして活用し、社会で求められる実践的なスキルを身につけてほしいと考えています」と導入経緯を語る。

実際にフード・マネジメント学科においては、学内ポータルを活用した情報共有、宿題の提出、プレゼンテーションや小テストなど、さまざまな用途でノートPCの活用が進んでいる。また個別指導が必要な学生に対しては、講師がビデオチャットを用いて自宅にいる学生とコミュニケーションを取ったり、学生によってはバイト先にノートPCを持参し、空き時間にオンライン英会話を受講したりと、学校外での利用も広がっているという。

中村氏は「ICTを活用することで、学びのスタイルも変わると考えています。今後はフィールドワークなど、学生が学校の外へ出て学ぶ機会もさらに増えると予測し、LTE対応を選びました。時代に合った学習環境をめざして、学園全体としてICTを進めていきたいと考えています」と語る。



(学)中村学園 理事・法人本部長
中村 紘右氏



学力向上をめざして、家庭学習と個別学習の環境を充実



紙の教材よりもタブレットを使った学習の方が取り掛かりやすい

中村学園三陽中学・高等学校においても、ICTを活用した学習環境の構築を進めている。同校では2016年度より中学1年生から高校2年生に対して、340台のLTEタブレットを導入し、1人1台体制を実施した。学力向上をめざして、eラーニング教材を用いた家庭学習や個別学習に力を入れるとともに、教育機関向けポータル「G Suite for Education」で、スムーズに情報共有ができる環境を構築した。

eラーニング教材のドリル学習は、月ごとに課題を決め、中学校は毎日学校で30分、高校は家庭学習として取り組んでいるという。生徒たちからも「プリントを使わないで学習できるのが良い」「分からないことをすぐに調べられるのが良い」と評判が良く、紙の教材よりもタブレットを使った学習の方が取り掛かりやすい様子だ。教師にもリアルタイムで進捗が分かることから、継続的な学習の習慣化にもつながっている。



教師のタブレット活用で、テンポの良い授業づくりを

また、教師のタブレット活用も進んでいる。授業中に簡単なクイズを行ったり、板書をスライドで表示したりと、シンプルな使い方ではあるが、テンポの良い授業づくりに役立っている。英語科の山内剛介教諭は「英語に対する苦手意識が減ってきたと思います。授業中の発言も増え、一斉授業のスタイルを変えていけると手応えを感じています」と話す。ほかにも、保護者にメールマガジンを配信したり、学校生活の写真を添えた学級通信を配布したりと、新たな情報発信にも取り組んでいる。

教師の負担軽減をICTで実現し、生徒と向き合う時間を増やす

「タブレットを導入したのは、もともと紙のプリントで行っていたドリル学習をeラーニング教材に移行することがきっかけでした」。

そう語るのは、中村学園三陽中学・高等学校の中学校長兼ICT推進委員長 梶原美隆氏だ。同校はこれまで、紙のドリル教材を使って基礎学力の向上に取り組んできたが、この学習方法は教師の採点負担が大きく、生徒たちの進捗状況を把握しきれないことが課題であった。梶原氏は「eラーニング教材であれば自動採点なので、教師の負担が軽減できます。また家庭学習でも活用できると考え、Wi-Fi環境のない家庭を考慮し、LTEタブレットを選択しました」と導入経緯を語る。

タブレット導入から2年が過ぎた中村学園三陽中学・高等学校。梶原氏は取り組みを振り返り、「eラーニングの学習は、生徒の進捗状況がリアルタイムで分かるので、遅れている生徒や理解が不足している生徒に対して、教師が早い段階から対応できるようになってきました」と語る。教師の採点時間が減ったことで、その分を生徒の進捗管理や個別指導に使えるようになったというのだ。ほかにも「ドコモから提供されたMDM（モバイルデバイス管理）が扱いやすく、安心できる環境でタブレットを活用できている」と梶原氏は述べる。破損時もすぐに代替品が送られるなど、教育活動を止めることのないサポート体制が良いという。

今後はタブレットを活用した英語教育に力を入れていきたいと梶原氏。生徒の学力向上をめざして、さらに活用範囲を広げていく考えだ。



中村学園三陽中学・高等学校
校長兼ICT推進委員長 梶原美隆氏

お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター (☎0120-808-539)
受付時間 平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場にICTを!

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/



※本チラシの内容は2018年2月取材時点のものです。